

12/21 (Sat.) EIT 国際会議観光スケジュール ~台南古都巡り

- AM 7:50 福華 HTL ロビーで集合・出発～台南安平古堡
AM 9:00 ~ 10:00 -- 安平古堡 (1 時間)

安平古堡紹介



安平古堡（一級古蹟）

台湾で初めての城となる「熱蘭遮城ゼーランディア城」が 1642 年、オランダ人の手によって建設されました。それがいまある安平古堡です。ここはかつてオランダ人による統治の中核とされ、「内城」と防衛用の「外城」が含まれています。当時、この城はオランダ人の台湾全島の統治と対外貿易の総拠点だったのです。

西元 1661 年、鄭成功がオランダ人の手中から台湾を奪回し、故郷を記念してこの地を安平と改名しました。

「王城」または「台湾城」と呼ばれていたことから、俗称、安平古堡ともいわれます。オランダ時代の遺跡は、古堡の北側平台下、二段内城半円堡の残がいと、古堡前方の道路わきの外城の城壁だったレンガ壁が残るのみで、古への思いを誘います。現在では第一級古跡に指定され、観光スポットにもなっています。

国の一級古蹟に指定されて今日では、台南市政府の一部のスペースを展示室に改築し、政府が所蔵している文化財のほか、博物館など民間の展示機構からも多くの貴重な文化財を借り受けて、この場所で人々に鑑賞してもらっています。

夕日に照らされた赤レンガの石畳とのことで、光と影のコントラストがとっても印象的な一枚。「安平夕日」という写真は 1953 年に台湾政府に台湾八景を指定された。



日本統治時代に建てられた展望台は赤い屋根のタワー型建築で、高さは約 6 メートルあり、安平古堡の新しいランドマークです。登ると、ゼーランジャ城の半円堡遺跡が俯瞰できるほか、遠く安平の街の風景も眺められます。

12/21 (Sat.) EIT 国際会議観光スケジュール ~台南古都巡り

● AM 10:00~11:00 徳記洋行、安平樹屋

(1 時間)



徳記洋行紹介

『徳記洋行』は『怡記』『和記』『東興』『味記』と合せて、『安平五大洋行』と呼ばれています。その時の安平港の貿易がかなり栄えていることを分かりました。現在、広く知られているのは徳記洋行及び東興洋行だけとなります。台南市政府が改修を行い、『台湾開拓史料蠟像館』と『生活文化館』にかえ、

安平における各時期の歴史、先祖の開拓史を記録しています。現在は国家三級古跡と指定

徳記洋行(台湾開拓史料蠟像館)の歴史・発展

徳記洋行はイギリスの貿易会社として 1867 年に台南安平に設立され、主に砂糖・樟腦・鴉片などを取引していました。1945 年台湾復興後に、台南塩場事務所にかえ、その後は台南塩場宿舍へ変更、1981 年に台湾開拓史料蠟像館。蠟像館には、行き来とした蠟人形は先祖が台湾を開拓する歴史から近代史まで、塩を作って暮らしていた生活などを紹介しています。



原徳記洋行の建築スタイル

徳記洋行館を訪れるなら、まず、蠟像館の 2 階入り口から見学してみましよう。館内の中央にある階段に上がったら、白い壁、緑色の瓶のような手すり、回廊など植民地時代の建築元素を楽しむこと。

12/21 (Sat.) EIT 国際会議観光スケジュール ~台南古都巡り

AM 10:00~11:00 徳記洋行、安平樹屋

(1時間)



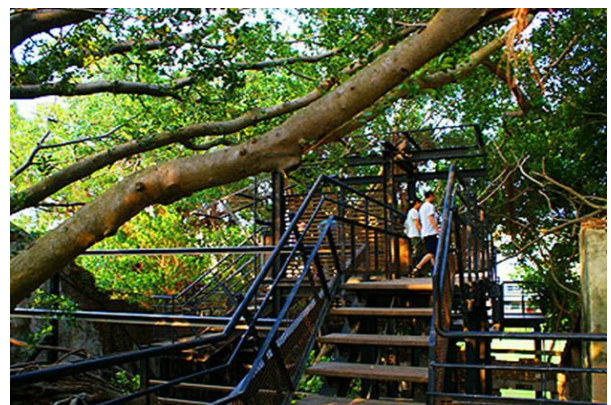
安平樹屋紹介

安平樹屋は元々イギリス商の倉庫で、この倉庫はイギリスのお茶を扱う貿易商の建物だった徳記洋行の裏にあります。現在は倉庫の内外に古いふるいカジユマルの木がいくつも絡み合っていることから「樹屋」と呼ぶようになります。

(↓カジユマルの木が建物に覆い被さり風景)

戦前は日本の製塩会社の倉庫だったが、廃墟になってからというもの、木がこの家を覆いかぶさるほどに成長し、まるで家なのか木の幹なのか分からなくなっている天然の芸術作品のようです。

昔の台湾人は、カジユマルの木は「陰」だと信じているため、あまり近寄ることがないまま歳月がすぎ、ここはお化け屋敷だと思っていたそうです。しかし、現在はカジユマルの木の生命力の強さに驚き、現在は安平地区で有名なスポットとなっています。



12/21 (Sat.) EIT 国際会議観光スケジュール ~台南古都巡り

AM 13:00~14:00 赤崁樓

(1 時間)



赤崁樓紹介（一級古蹟）

赤崁樓はオランダ人が1652年に建造したもので、当時は「普羅民遮城」(プロヴィンシア城)と呼ばれ、オランダ統治、明鄭時代、清代、日本統治時代とこれまで様々な政権お変遷を経て、数回に渡る改築や修復が施された赤崁樓は国家一级古蹟に指定され、台南を代表する名所古蹟となります。

(海神廟)

台南赤崁樓の主体建築は清の時代に建てられた海神廟と文昌閣があります。海神廟が南向きで、文昌閣が北向きになります。文昌閣の2階に魁星爺が奉られています。学生がここに参拝に来ては、順調に成功が収められるよう祈りました。そのため、名声を求めるあまり、魁星爺が手にしている朱墨の筆がよく盗まれてしまい、現在は隅に祈願を記したお札を掛ける板を設置しています。文昌閣の1階には



はたくさんの石碑が置かれています。その中

に脚を鋸で切られた石馬があります。石馬は鄭成功の墓を守ることを拒み、夜になると、近所の田んぼを踏み潰すという災いをおこすようになり、怒った農民に脚を鋸で切られてしまい、今の姿になったのです。



(文昌閣)

赤崁樓最廂

裏側の部屋の基礎部分には、花崗石で出来た亀の上に碑文が立てられ、碑文は乾隆時代に書かれたもので、林爽文の役を平定した福康安を賞賛する内容です。亀に背負わせているのは、龍が生んだ9匹の子のうち、1匹が重荷を背負う神通力亀に似た動物である最廂になったという説に由来しています。



【 赤坂樓建築の特色 】



技勇石

文昌閣と海神廟前の小道左側には十数個の石が置かれています。技勇石はその中の一つで、古代のダンベルです。清の時代には、立ち回りを演じる役者を選ぶ際、これを持ち上げる試験をしたそうです。



石の獅

海神廟の露台前のレールに、6個の小さい石獅子があつて、柱とつながり、小さい獅子は欄干の上に様々な姿で迎えてくれます。



瓶門と玉兔焦葉

海神廟の回廊に歩くと、花瓶のような形をしている裏口があります。造型は花瓶というのは、瓶と平の発音が一緒で、平安の意味を取られている。門や入り口の上に渡した横木の月の焦の葉デザインに、「月は東に昇る」というめでたい意味があります。



書卷型窓

海神廟と文昌閣に、青竹を模した棧が付けられた窓枠があつて、その青竹を通して入ってくる風は気分を落ち着かせるのであろう。



鯉の水しぶき

海神廟は古式ゆかしい樓閣で、伝統的な屋根の先は、生き生きと水の中を踊る鯉の造型で飾られています。美しいの上に防災の意味を含め、無事であることを保護しています。



簷獅

赤坂樓の海神廟と文昌閣は「歇山重簷頂」の造型で、屋根の両側には「簷獅」という獅子の造型があり、それは魔除けとして飾られています。



石鼓 石鼓はドアを強固するための構造であります

12/21 (Sat.) EIT 国際会議観光スケジュール ~台南古都巡り

● AM 15:30~16:30 孔廟

(1 小時)



孔廟紹介(一級古蹟)

台南孔子廟は 1665 年に建立された台湾初の文廟で、現在国家 1 級古蹟に指定されています。台湾でははじめての学校として学生たちが学問に励みました。門に記されている「全臺首學」という文字の意味は「台湾で最初の学校」という意味です。

台南孔廟は 320 年の歴史があり、「左学の右廟」と呼ばれる配置で建てられています。「左学」とは「国学」で昔の学生たちが勉強した場所で、現在の「明倫堂」となり、「右廟」とは「文廟」のことで、孔子が祭られている場所を表しています。

(明倫堂内)



(大成殿)



孔子廟で最も目を引くのが、「大成殿」です。そこは柱と回廊がなく、厚い壁と梁だけで支えられた特殊構造で、中国古来の建築様式を代表する一つと言われています。

台湾で最初に孔子大典が行われた場所としても知られ、孔子の生まれたとされる新暦の 9 月 28 日に孔子を称え、また現代の教育者たちの労をねぎらう祭典が行われるようになりました。9 月 28 日の朝



から、古来の伝統にのっとり、殺したかばりの牛など大成殿にそまま供える。供え物の牛の毛は学業成就にご利益があるとされていることから、子供たちが競って毛を抜こうとし、儀式は最高潮を迎えることとなります。

